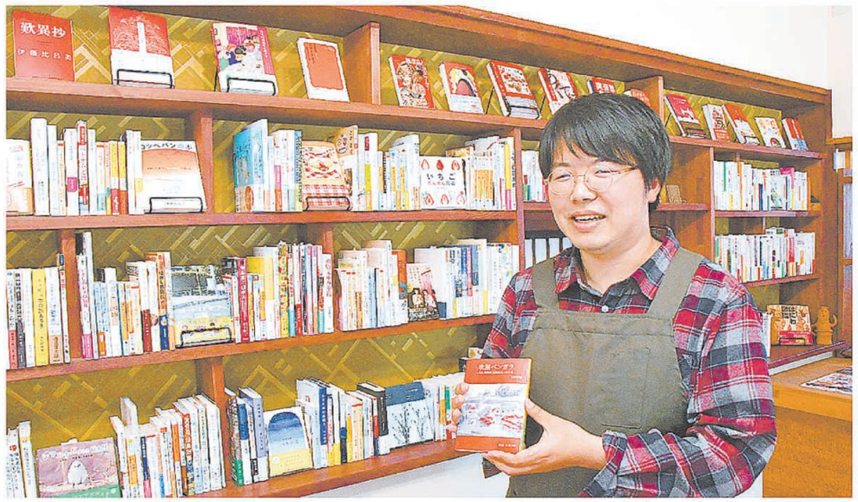
読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

高梁市の吹屋ふるさと村に多彩なジャンルの本が並ぶ本屋がオープンしました。記事を読んで質問に答えましょう。

埼玉から移住・川鍋さん 吹屋唯一の書店開業

無類の本好き 古民家改修し800冊



吹屋ふるさと村に本屋「袖珍舎」を開いた川鍋さん

高梁 高梁市の観光スポット・吹屋ふるさと村（同市成羽町吹屋）に個人経営の本屋「袖珍舎」がオープンした。店主は埼玉県から移住した川鍋裕和さん(31)。古民家をリノベーションし、郷土史や食、旅、動植物など多彩なジャンルの中からえりすぐった約800冊を並べた。（小川正貴）

古民家は国重要文化財・旧片山家住宅に隣接する木造平屋（約30平方㍍）。店名は、着物の懐や袖に入れて持ち歩ける和とじ本「袖珍本」から名付けた。

「この場所で出合った本と一緒に、いろいろな場所に出かけてもらいたい」との思いを込めた。

店の本棚に並ぶのはポケットサイズの文庫が中心。かつて赤色顔料・ベンガラの生産で栄えた吹屋の歩みなどを記した歴史本のほか、小川洋子さんや重松清さんら岡山県出身作家の小説、鉄道旅行、野鳥、パン作りに関する本などをとりそろえた。ベンガラ色の町並みにちなみ「赤い」表紙の書籍も集めている。

川鍋さんは、旅行で訪れた吹屋で人々の温かさや穏やかな風土に魅了されたといい、2022年秋に移住。警備会社に新たに就職した。

無類の本好きで、自宅近くの古民家が売りに出されていることを知り「本屋も営みたい」と思い立ったという。仕入れの方法などを学び、4月に吹屋唯一の書店を開業した。

オープン後、地元の人たちや観光客らが立ち寄り、本選びを楽しんでいる。川鍋さんは「本を片手に良い時間を過ごしてほしい。皆さんの意見を聞いていろいろな本を用意していきたい」と話している。

不定休。営業時間は正午～午後5時。インスタグラム（@syuchin_sya）で営業日などを公開している。

低学年もチャレンジ！

Q1 この本屋は観光スポットにあります。皆さんなら観光スポットにどんなお店を開きますか。

Q2 この本屋の店名「袖珍舎」は「袖珍本」から名付けられました。「袖珍本」とはどのような本ですか。第２段落から抜き出しましょう。

Q3 この本屋には「赤い」表紙の書籍も集められています。何にちなんでいるでしょうか。

過去の問題はこちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。